



NEWSLETTER

～ 水を守り 湖を救う ～

公益財団法人 国際湖沼環境委員会(ILEC)
本ニュースレターには、英語版もございます。

財団設立30周年特集：ILECの原点と世界湖沼会議

日本列島の中心部、琵琶湖のほとりに拠点を置くILECは1986年の設立以来、
1. 統合的湖沼流域管理の推進、2. 世界湖沼会議の開催などの国際協力、
3. 研修・教育活動による人材育成の3本柱を軸に、世界の湖や沼とそれらの流域が抱えるさまざまな課題の検証と解決に向け、皆さまとともに歩んでまいりました。ILEC誕生に2年先立ち始まった世界湖沼会議(WLC)は、一昨年に第15回目の開催をもって30周年をイタリアのペルージャで迎え、そしてまもなく、今年11月7日からインドネシアのバリ島にて第16回の会議が開幕しようとしています。本号では財団設立30周年を記念し、ILEC誕生のきっかけとなったWLCの原点と歴史をふりかえります。

今や第1回目のWLCとして認識されている1984年の世界湖沼環境会議(LECS' 84)は、開催地の琵琶湖をめぐる当時の環境問題に対して全国でも先駆的に取り組んでいた滋賀県行政や県民が中心となり、学者や企業関係者を巻き込んだ開催実現に至りました。会期中はこうしたあらゆる立場の参加者が、地球上の貴重な資源と人間の生活の恵みの源である湖沼の持続可能な管理について互いの知見を交換し議論を行い、未来に向けて提言を行いました。これは、「琵琶湖宣言」として発表され、以降のWLCでも開催地から世界に向けた湖沼保全のための提言として発信され続けてきました。先述の通り、WLCは単なる学会に留まらず湖沼のさまざまな利害関係者が一堂に会する国際会議として、第2回目の米国ミシガン州マキノウ島を皮切りに世界各国で開かれ、地球上の湖沼とその流域



LECS' 84 (1984年8月 滋賀県 大津市)

で起こっている多種多様な環境問題の解決に向けて話し合う場として、国際的にも広く知られるようになりました。これまでの開催国やテーマ、参加者数、宣言などの概要は次ページにて特集しております。

ILECの原点は、LECS' 84の基調講演において、モスタファ・K・トルバ国連環境計画事務局長(当時)が発せられたある提言内容にあります。ここにその一部を抜粋*いたします：「わたしが述べた環境的に健全な開発とは、親と子が互いにはぐくみ合うような関係を人と湖沼の間に確立しようということである。もし湖沼というものが、今後も乱用され続けるならば、親子が運命を共にするように、主として人間の生存の危機に迫られることになる。我々は同じ危険を共有しているのである。従って、環境的に健全な開発を実行するために、我々一人一人の努力の積み重ねが大切であり、我々

一人一人が人類の将来を決定するのだという意識を等しく共有していなければならない。(中略)しかし、この種の会議は、多くの人々の献身的な参画を得て、いかに素晴らしい成果を上げたとしても、最終的に具体的な行動に移らなければ意味がないであろう。そこで、湖沼保全に国際的にかつ永続的に取り組むために、国際滋賀委員会の設置を提案する。そして我々は、この委員会を通して、本会議の継承発展をはからなければならない。」

今年3月、惜しくもトルバ氏は他界されましたが、ILECはこの提言の根底にある理念に常に立ち返り、これからもWLCの継続を軸に世界の湖沼保全を皆さまと推し進めてまいります。今後とも、かわらぬご協力、ご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

*引用元：月刊NIRA Vol.6 no. 11
(1984年11月 総合研究開発機構 発行)

今号のトピック

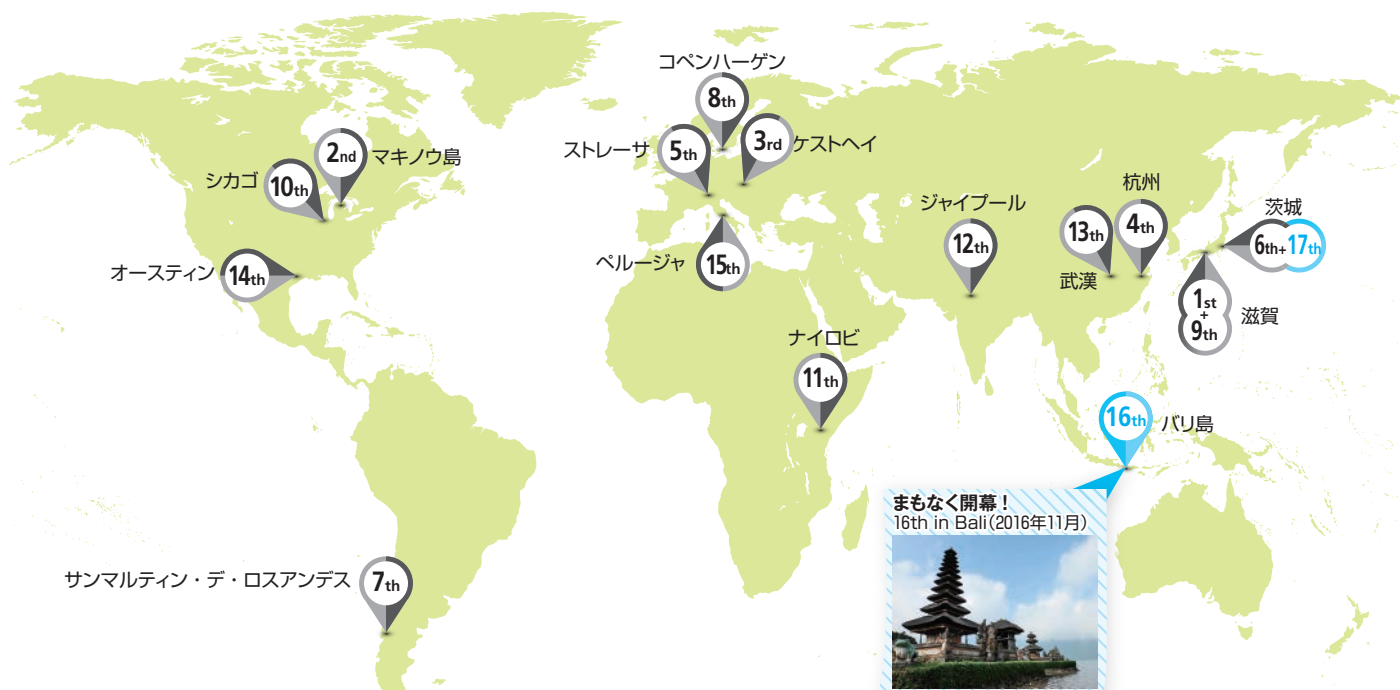
- 財団設立30周年特集：
ILECの原点と世界湖沼会議
- 世界湖沼会議 これまでとこれから

- 世界湖沼会議「宣言」のふりかえり
- おくやみ：ILECの設立と成長を支えたお二方がご逝去
- ご寄付・ご協力ありがとうございます！

世界湖沼会議 これまでとこれから

世界湖沼会議(WLC)は、1984年に滋賀県の提唱により開かれた「世界湖沼環境会議(LECS'84)」の後身として、これまでおむね2年毎に日本、米国、ハンガリー、中国、イタリア、アルゼンチン、デンマーク、ケニア、インドにて多様なテーマと参加者とともに開催されてきました。今年2016年には、東南アジアで初めてのWLCとなる第16回目の会議(WLC16:バリ・インドネシア共和国)がまもなく11月7日～11日に開幕し、さらに2年後の2018年10月には茨城県での23年ぶりとなるWLC17の開催を控えています。

	開催年	開催地	テーマ	主催
第1回* (LECS'84)	1984年	滋賀県 大津市	湖沼環境の保全と管理 ー人と湖の共存の道をさぐるー	滋賀県
第2回 (WLC2)	1986年	米国 ミシガン州 マキノウ島	毒性物質による汚染問題 ー世界の大湖沼の水質を脅かす重要問題ー	ミシガン州
第3回 (WLC3)	1988年	ハンガリー ケストヘイ	富栄養化・酸性化・毒性物質汚染・モデリング・湖沼回復保全アプローチ・関係者の役割・環境問題全般	ハンガリー環境保護水資源管理省
第4回 (WLC4)	1990年	中国 浙江省 杭州	湖沼の富栄養化	中国環境科学研究院
第5回 (WLC5)	1993年	イタリア ピエモンテ州 ストレーサ	21世紀に向けた湖沼生態系保全戦略	イタリア水生生物研究所
第6回 (WLC6)	1995年	茨城県 つくば市 / 土浦市	人と湖沼の調和 ー持続可能な湖沼と貯水池の利用をめざしてー	茨城県
第7回 (WLC7)	1997年	アルゼンチン サンマルティン・ デ・ロスアンデス	後世のためにクリーンな自然湖沼環境を守る	アルゼンチン国立水環境研究所
第8回 (WLC8)	1999年	デンマーク コペンハーゲン	持続可能な湖沼管理	コペンハーゲン市
第9回 (WLC9)	2001年	滋賀県 大津市	湖沼をめぐる命といとなみへのパートナーシップ ー地球淡水資源の保全と回復の実現に向けてー	滋賀県
第10回 (WLC10)	2003年	米国 イリノイ州 シカゴ	大湖沼への地球規模の脅威 ー不安定で予測不可能な環境下での管理ー	五大湖国際研究機関
第11回 (WLC11)	2005年	ケニア ナイロビ	湖沼流域の持続的管理に向けて ー世界の経験とアフリカ大陸の課題ー	ケニア政府
第12回 (WLC12)	2007年	インド ラジャスタン州 ジャイプール	将来に向けての湖沼と湿地の保全	インド環境森林省
第13回 (WLC13)	2009年	中国 湖北省 武漢	湖沼生態系の復元 ー世界の挑戦と中国の取り組みー	中国環境科学学会
第14回 (WLC14)	2011年	米国 テキサス州 オースティン	湖沼、河川、地下水、海岸域の「つながり」を考える	テキサス州立大学河川システム研究所
第15回 (WLC15)	2014年	イタリア ウンブリア州 ペルージャ	湖沼は地球の鏡 ー生態系と人間活動の健やかな調和に向けてー	ウンブリア科学ミーティング協会
第16回 (WLC16)	2016年	インドネシア共和国 バリ島	湖沼生態系の健全性と回復力 ー生物多様性と種の絶滅の危機ー	インドネシア共和国環境林業省
第17回 (WLC17)	2018年	茨城県	人と湖沼の共生 ー持続可能な生態系サービスを目指してー	茨城県



WLC18(2020年度)以降の開催誘致について:

2020年に開催が見込まれるWLC18、またはそれ以降のWLC誘致についてのお問い合わせ、ご意見等がございましたら(誘致元・団体等の候補は国内外問いません)、ILEC事務局(連絡先を本紙最終ページに記載)までお寄せください。

世界湖沼会議「宣言」のふりかえり

世界湖沼会議では、「未来の人類のために、湖沼を健全な状態に保っていくことが必要であるが、加速度的に進行する湖沼の環境悪化を鑑み、社会経済状況を認識しつつ、湖沼環境を持続可能な状態に再生しなければならない。」という基本的な認識のもと、会期中に議論したことを「宣言」として世界に発信してきました。1984年の世界湖沼環境会議より脈々と継承されてきた提言内容に、時代ごとの社会の発展に伴って重要と見なされるテーマを加えて議論し、毎回の会議にて採択・発表されています。これまで、どのようなキーワードが宣言に盛り込まれてきたのでしょうか。ここで、少しふりかえてみましょう。



国連による国際湖沼年設定の検討

持続的な管理のため、地域社会の能力を向上

新たな世代に科学的知識を習熟させるため、アフリカにセンターを設立

千年紀開発目標(MGDs) 達成に向け、統合的水資源管理(IWRM)に資金を導入

2005 ナイロビ

1984 滋賀

集水域の環境管理モデル開発、調査・監視、分散汚染源の制御戦略

政策決定に先立つ環境アセスメントの制度化

住民による環境悪化防止のための自発的組織の構成

人的資源の不足に対し、湖沼の特性と管理方法についての教育・訓練を実施

湖沼の特性、管理方法の情報・経験の国際交流が必要

気候変動に対応する研究による適応戦略の開発

侵入水生生物を制御するガイドライン・手順書の開発

地域共同体における女性・若者を含む利害関係者の積極的な参加を奨励

教育・訓練を目的としたアジア湖沼環境研究センターの設立

湖沼・湿地の復元と管理を国際支援による協定を通じ促進

国際協力を可能にする制度・資金調達メカニズムの開発

2007 ジャイプール

2009 武漢

湖沼管理における富栄養化防止・生態系回復を促進する技術開発

低炭素経済・循環型経済とグリーン・エコノミーの促進

生態系サービスの保全に向けた住民を主体とする取組の促進

ILBMを湖沼流域管理の第一の手段として採用

持続可能な湖沼生態系サービスを維持する新しい資金確保手段を模索

流水系と静水系のつながり、供給サービス・文化的サービス・調整サービスに着目

水文学・社会経済を考慮した統合的な水管理計画や対策を実施

女性や若者を含む利害関係者に対し、彼等が水生生態系システムに及ぼす影響を教育

ILBMが世界の水議論の主流となるように努力

淡水システムの持続可能な管理には、継続的かつ十分な資金確保が重要

2011 オースティン

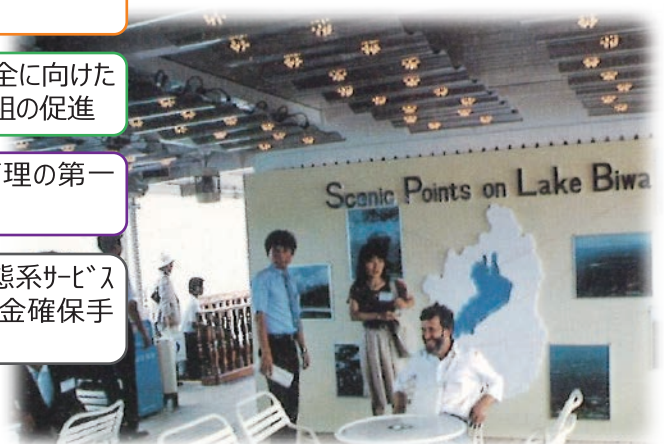
2014 ペルー・ジャ

気候変動の影響などリスクのバロメーターとしての湖沼の役割に注目

あらゆる利害関係者による持続的な湖沼生態系サービス達成の保証

湖沼と人間社会の文化的絆を進化させる教育

ILBMは持続的な水生生態系サービスを達成するもの



おくやみ:ILECの設立と成長を支えたお二方がご逝去

今年3月、ILECの設立と成長を支えた偉大なお二方がご逝去されました。
ここにご冥福をお祈り申し上げます。

モスタファ・K・トルバ博士 (享年93歳)

国連環境計画(UNEP)元事務局長のモスタファ・カマル・トルバ博士が、2016年3月28日にジュネーヴにて逝去されました。現職当時のトルバ氏は、後に世界湖沼会議の前身となった1984年の世界湖沼環境会議(LECS' 84 於 琵琶湖畔)の基調講演において、湖沼流域の健全なマネジメントを目指した議論を以後世界各国で定期的に続けるべく、本会議の開催継続を目指した「国際滋賀委員会」の設置を提言されました。これを受け、2年後の1986年に国際湖沼環境委員会(ILEC)が設立されました(関連記事:本号表紙)。トルバ博士なくしては、ILECも世界湖沼会議も存在し得なかったといっても過言ではありません。世界の水環境の保全において献身的な偉業をおさめられたトルバ博士に、改めて感謝の意を表します。



LECS' 84開催当時の故トルバ博士
(1984年 滋賀県 大津市)

スヴェン・E・ヨルゲンセン博士 (享年82歳)

ILEC設立メンバーとして1986年より2006年までの20年間、当財団委員(後に科学委員)としてILECの活動を支えたスヴェン・エリック・ヨルゲンセン博士が、2016年3月5日、コペンハーゲンにて逝去されました。ILEC退任までの約10年間は科学委員長として、財団の活動を国際的に展開する上で多大なるリーダーシップを発揮されました。後年はコペンハーゲン大学の名誉教授として、また生涯にわたり世界的に著名な生態学者・化学者としてご活躍された博士は、2004年には「水のノーベル賞」としても知られるストックホルム水大賞、および熱力学分野の権威あるプリゴジン賞を受賞されています。ヨルゲンセン博士のような偉大な科学者に長年財団の運営に関わっていただいたことはILECの誇りであり、ここに改めて尊敬の意を表します。



WLC 3 開催当時の故ヨルゲンセン博士
(1988年 ハンガリー ケストヘイ)

ご寄付・ご協力ありがとうございます!

●平成27年度に寄付のご協力をいただいております企業・団体様のご紹介 (順不同)



●平成27年度に賛助会員(法人)として会費をいただきました企業・団体様のご紹介
(一口3万円:二口以上の会員様のみ) (順不同)



財団の活動へのご理解とご支援を賜りたく、ILECは寄付のご協力および賛助会員へのご入会をお願いしております。寄付金、賛助会費には税制上の優遇措置が適用されます。詳しくは www.ilec.or.jp/jp/advertise をご覧ください。



INTERNATIONAL LAKE ENVIRONMENT COMMITTEE FOUNDATION (ILEC)

〒525-0001 滋賀県草津市下物町1091 公益財団法人 国際湖沼環境委員会
— 事務局 — Tel: 077-568-4567 / Fax: 077-568-4568 / E-mail: infoilec@ilec.or.jp
Website: www.ilec.or.jp / Facebook: www.facebook.com/ilec.japanese

*本ニュースレター最新号、バックナンバーは上記の当財団ホームページでもご覧になれます。